

2021年度 船舶基準セミナー

～安全分野（船上揚貨装置の規則策定、GMDSS近代化、救命胴衣試験基準改正等）に関する国際海事機関（IMO）の最新動向～
開催報告

2021年3月

一般財団法人 日本船舶技術研究協会
基準・規格グループ 基準ユニット

当協会では日本財団のご支援をいただき、関係者のご協力のもと、国際海事機関（IMO）における船舶の国際基準策定に積極的に取り組んでおります。

IMOでは、船舶の安全性向上のために、構造、甲板機械、無線・航海設備、救命設備及び防火設備等に係わる諸基準の検討が行われております。

今般、昨今の審議状況を踏まえて表題のセミナーを開催し、IMOにおける安全関係諸基準に関連する3つのトピック（①船上揚貨装置のための新たなSOLAS規則の策定、②GMDSS近代化のためのSOLAS規則の改正及びVDESの導入、③SOLAS救命胴衣のための基準の改正）について、将来的に多くの船舶への適用が見込まれるところ最新動向及び日本の対応をご紹介するために題記のセミナーを開催いたしました。

開催内容の概要は、次のとおりです。

1. 日時及び場所

日 時：2021年10月18日（金） 10時00分～12時00分

場 所：WEB開催

参加者：約130名

2. 各講演の概要等

開会挨拶 当会 会長 田中 誠一



IMOにおける安全基準の策定および最近の審議動向

国土交通省 海事局 安全政策課 船舶安全基準室長

植村 忠之 様



(講演概要)

船舶の国際基準はIMOで議論されており、船舶の安全基準等を定めた条約である海上人命安全条約（SOLAS条約）についても、その発効以後、技術の進歩等を踏まえた改正が継続して行われております。我が国はこれまで世界有数の海運・造船国として積極的に議論に参画しており、確かな技術的な知見に基づいた提案により、合理的な基準の策定と我が国海事産業の競争力強化に努めております。

本セミナーでは、SOLAS条約をはじめとした条約改正のプロセスや、IMOの議論に対する日本国内の検討プロセスをご紹介します。また、自動運航船や水素・アンモニア燃料船の安全基準に関する審議動向等について紹介しました。

船上揚貨装置のための新たな SOLAS 規則の策定

一般財団法人 日本船舶技術研究協会 基準ユニット 研究員

IMO 船舶設備小委員会 (SSE)

船上揚貨装置及びアンカーハンドリングウィンチの要件WG議長

江黒 広訓



(講演概要)

長らくIMOで議論されていた、船舶に搭載される各種揚貨装置（荷役用クレーン、雑用クレーン及び機関室クレーン等）の安全性を向上させることを目的とした設計、試験、検査、保守・点検及び運用に関する包括的な義務的要件の策定が最終段階を迎えております。この新SOLAS規則は、新造・既存を問わず、全ての船舶に搭載されるクレーンに適用されることとなり、早ければ2026年1月1日に発効する予定です。この新たなSOLAS規則の策定において、日本はIMOの作業部会（WG）議長及びコレスポンドンス・グループのコーディネータを務め、主導的な立場ととして参りました。

本セミナーでは、最低法定設備である従来の船舶の安全設備ではない揚貨装置をSOLAS規則に組み入れた背景や新要件策定のプロセスを含めて、新たな基準についてご紹介しました。

GMDSS近代化のためのSOLAS規則の改正及びVDESの導入

一般財団法人 日本舶用品検定協会 顧問

吉田 公一 様



(講演概要)

船舶の遭難時に発信される遭難警報がいかなる時でも陸上の救助機関や付近の船舶に受信され、衛星通信を含む一体となった通信網の中で効果的な救助活動を行うことを可能とする無線通信システムとして「海上における遭難及び安全に関する世界的な制度（GMDSS：Global Maritime Distress and Safety System）」が30年間に渡り運用されております。今般、このGMDSSの近代化が議論され、SOLAS条約附属書第V章の全面的な改正や各種性能要件等の見直しが行われております。今後の海上安全委員会（MSC）での改正案の採択を経て、2024年1月1日から近代化されたGMDSSが運用される予定です。

本セミナーでは、この近代化されたGMDSSについてこれまでの議論の経緯や現状の制度からの変更点等についてご紹介しました。また、今般、VHFデータ交換システム（VDES）をSOLAS条約上の航海機器として位置付けるための議論が日本の提案に基づき開始されることが決定されましたので、VDESについても紹介しました。

SOLAS救命胴衣のための基準の改正

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
海上技術安全研究所 国際連携センター 副センター長

宮崎 恵子 様



(講演概要)

救命胴衣を着用していたにも係わらず事故が発生した事案を踏まえて、救命胴衣の要件、特にその復正性能（水中でうつ伏せの状態から自動的に仰向けに浮き上がる能力）を改善させるための議論が今年からIMOで開始されます。この議論により、救命胴衣の大きさや形状、取り付け物が現行から変更となることが予想されております。更に、既に船舶に搭載された既存の救命胴衣を置き換えることも提案されており、広く業界に影響を与える可能性があります。日本は、既に欧州から提案された復正試験法は公正性や再現性に問題があると考え、この問題を解決する方法を検討しており、新たな試験要件としてIMOに提案していくことを予定しております。

本セミナーでは、IMOにおける救命胴衣の議論の動向及び新たな試験要件に関する日本の取り組みについてご紹介しました。

以上